



1. 2025年3月期 決算概要

2. 中期成長戦略

3. 2026年3月期業績予想

4. Appendix



1. 2025年3月期 決算概要



■ 売上高は病院設立以来、**連続して過去最高を更新中**

■ 各利益でも**過去最高を達成**

■ 好調な業績をうけ、第4四半期に**88百万円の追加投資を実施**

【ポイント】

連結売上高5,277百万円（前年比+23.6%）、営業利益720百万円（同+45.1%）、
経常利益720百万円（同+47.1%）、純利益520百万円（同+54.5%）

（参考）第3四半期決算発表時に上方修正した業績予想数値

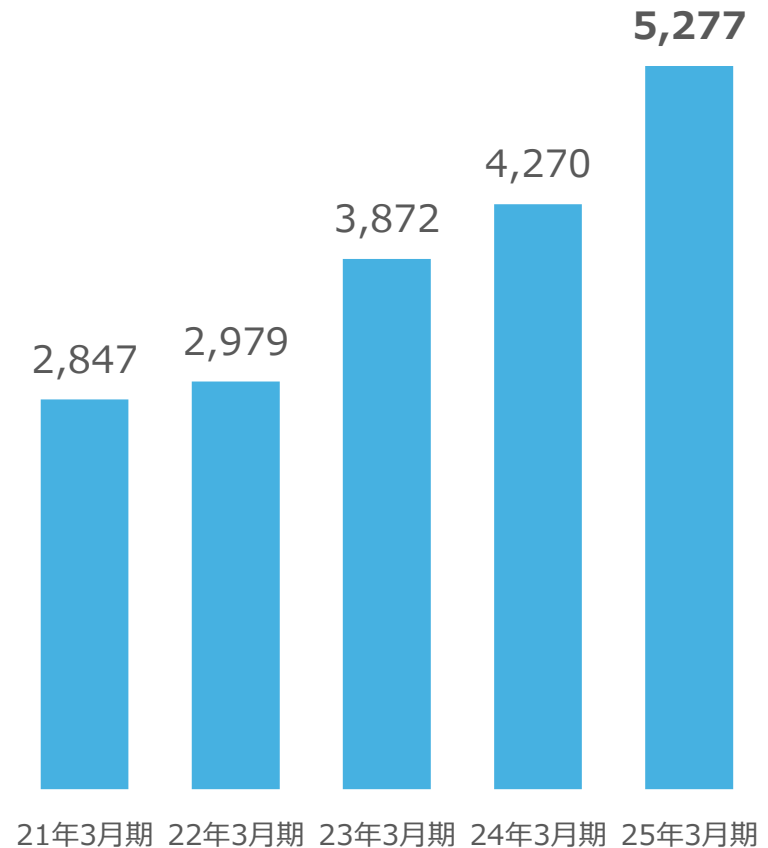
売上高 5,220百万円（当初予想からの増減+8.3%）、営業利益680百万円（同+8.8%）、
経常利益680百万円（同+8.8%）、純利益475百万円（同+8.0%）

2025年3月期 決算サマリー

- 売上高、各利益共に過去最高を更新
- ROE 13.1%（前年比+4.1ポイント）、EBITDA 1,316百万円（前年比+35.8%）

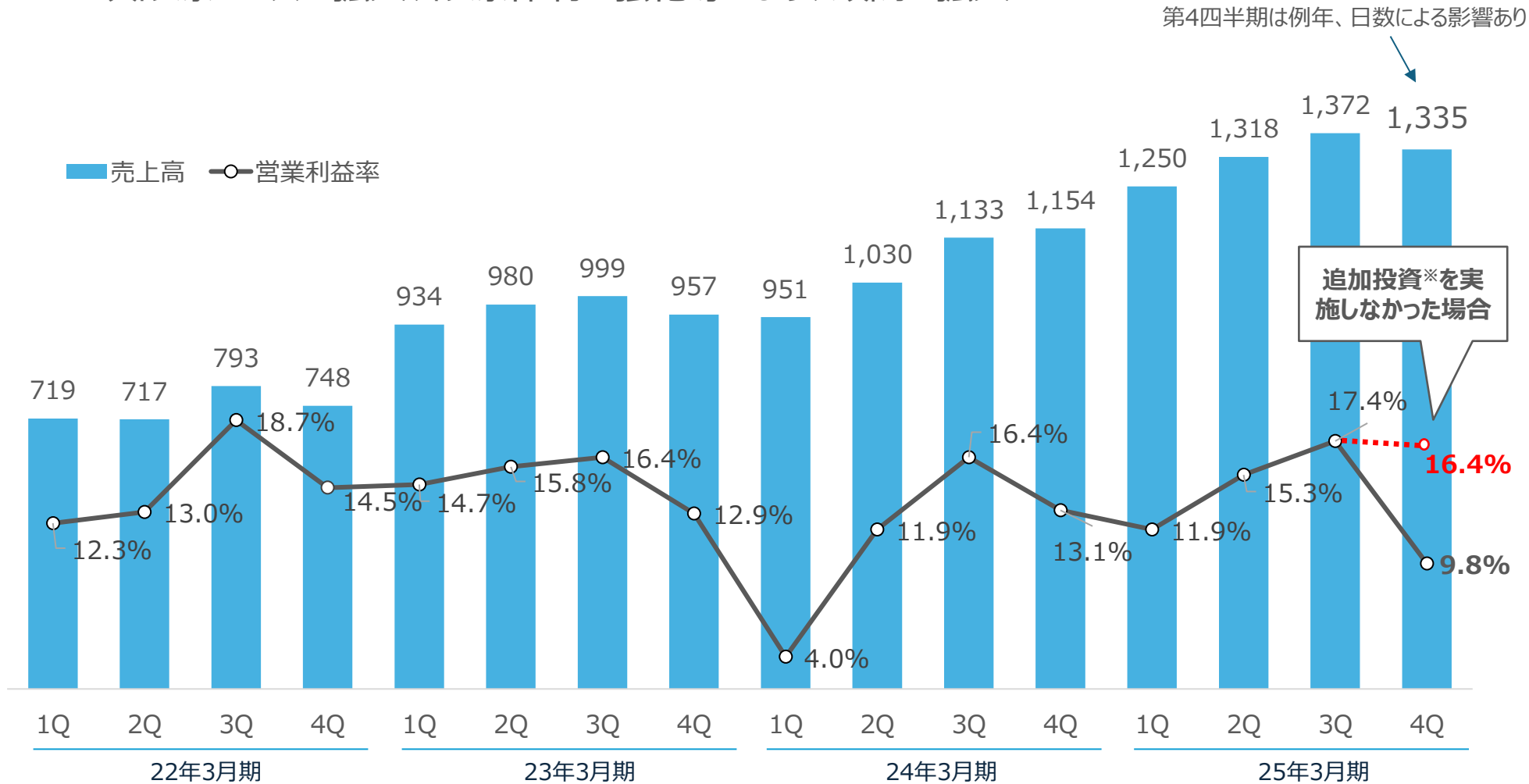
(百万円)	2024年 3月期	2025年3月期		
	実績	実績	前年比 増減	業績 予想
売上高	4,270	5,277	+23.6%	5,220
売上総利益	1,464	1,832	+25.1%	-
販売費及び一般管理費	967	1,111	+14.9%	-
営業利益	496	720	+45.1%	680
経常利益	489	720	+47.1%	680
親会社株主に帰属する 当期純利益	337	520	+54.5%	475
1株当たり 当期純利益	123.0円	201.1円	+63.5%	183.4円
ROE	9.0%	13.1%	+4.1ポイント	-
EBITDA	969	1,316	+35.8%	-

売上高の推移（百万円）



四半期毎の業績推移

■ 二次診療ニーズの拡大、診療体制の強化等により、順調に拡大

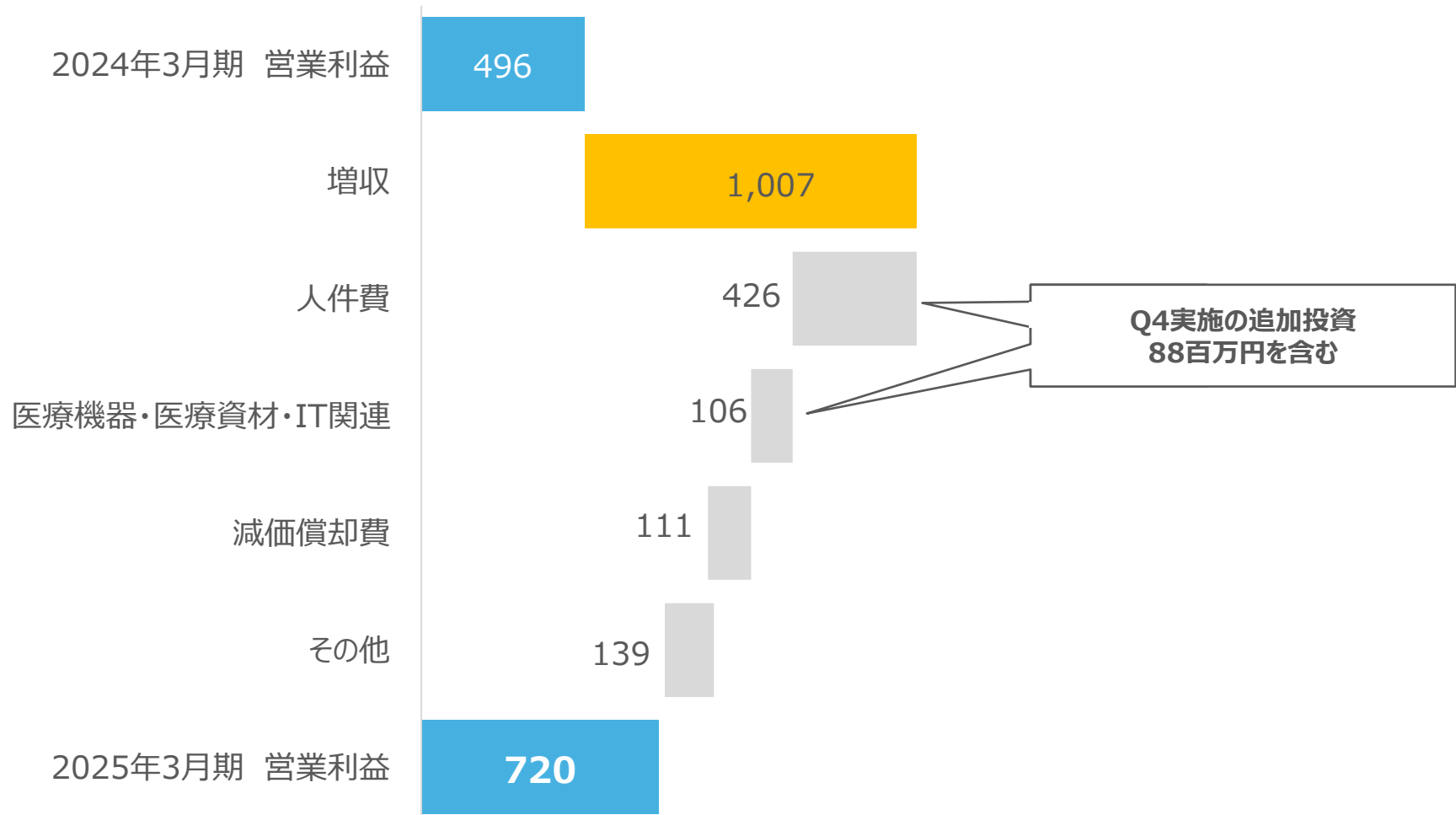


※：追加投資は特別賞与のほか、医療機器、医療資材、IT関連など

営業利益と増減要因

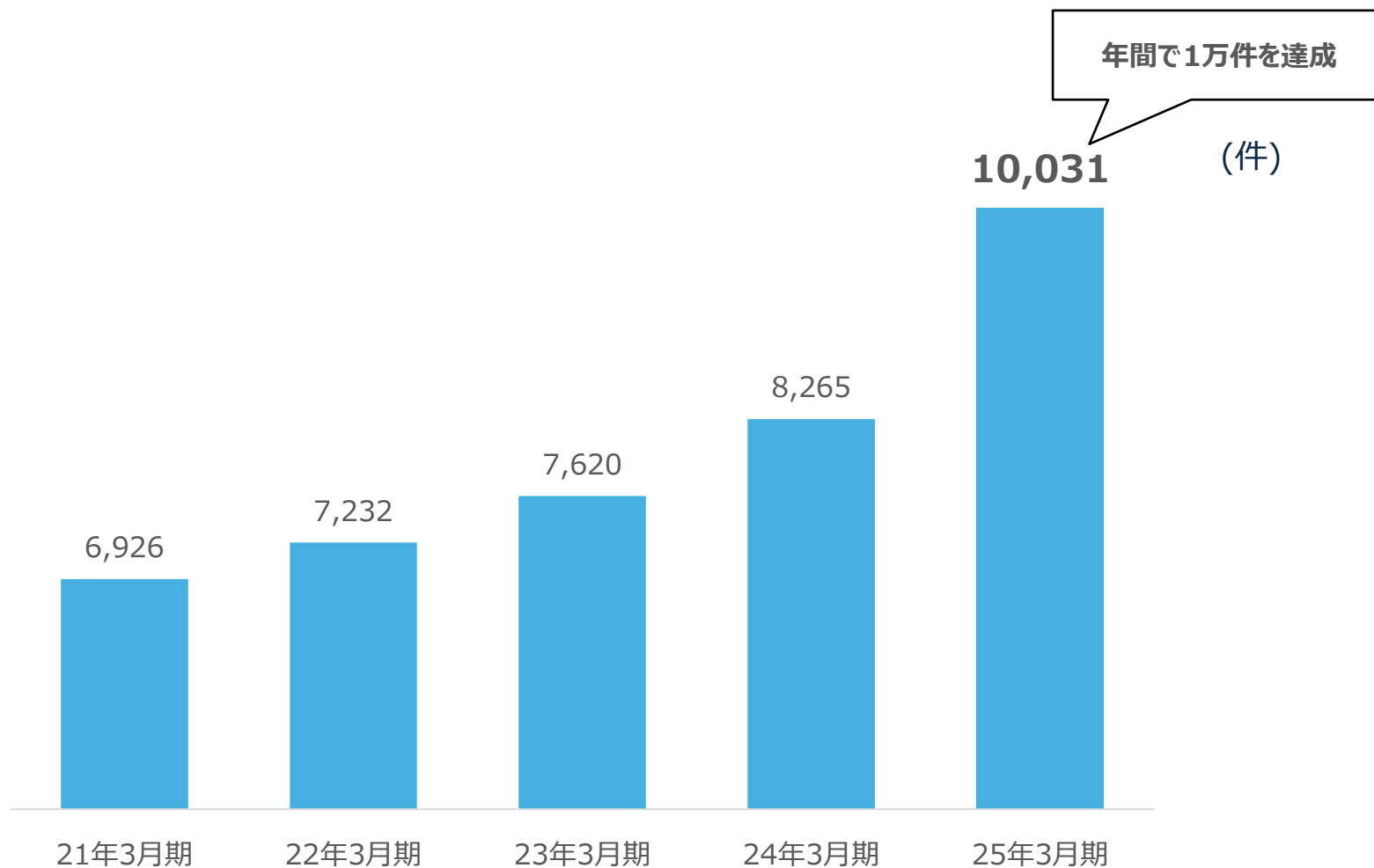
- 人材、医療機器、ITへ積極投資を実施したが、増収と効率向上でカバーし、増益

(百万円)



事業KPI：初診数（紹介数）

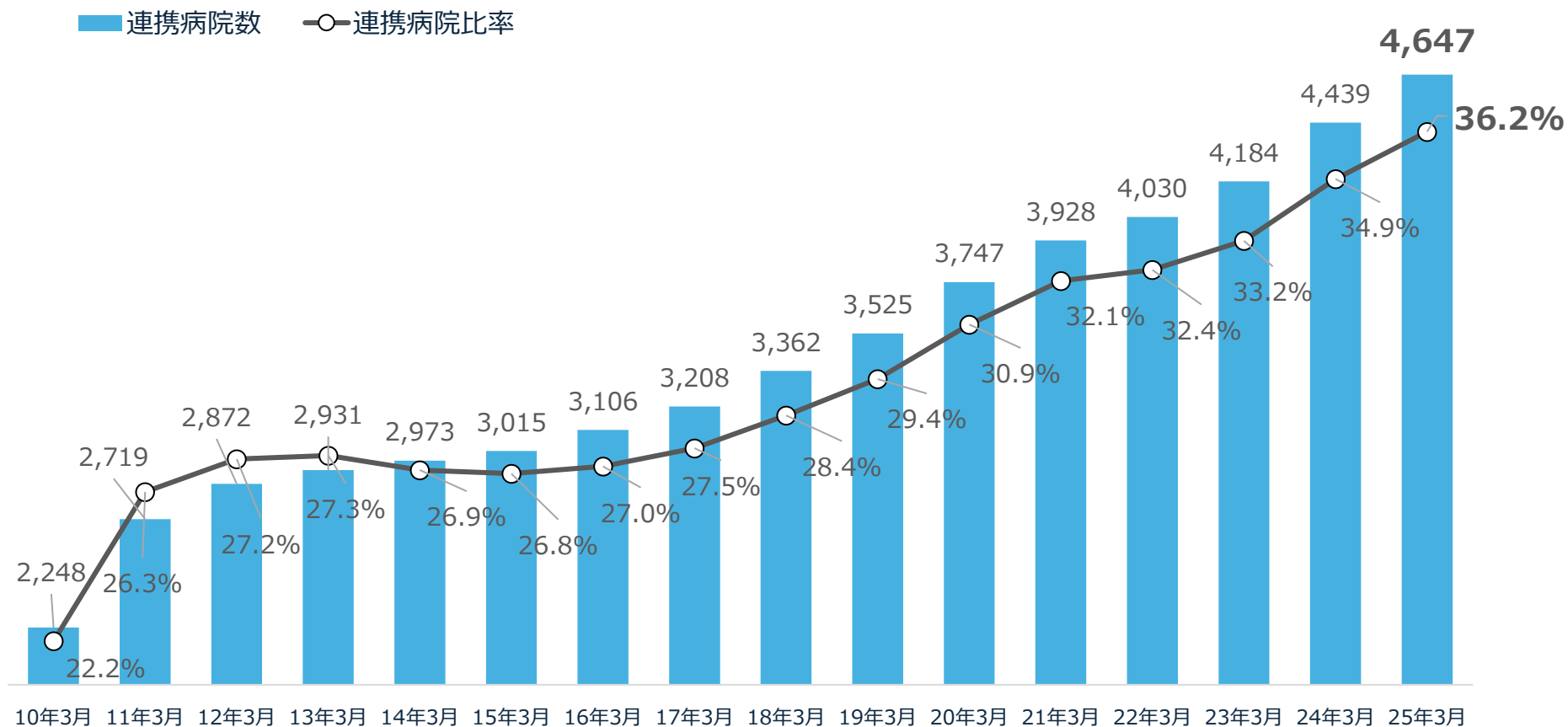
- 二次診療ニーズの拡大、連携病院数の増加により、初診数は順調に拡大



事業KPI：連携病院数

- 2025年3月期末の連携病院数は4,647施設となり、前年同月末から208施設増加
- 連携病院比率も36.2%へ上昇

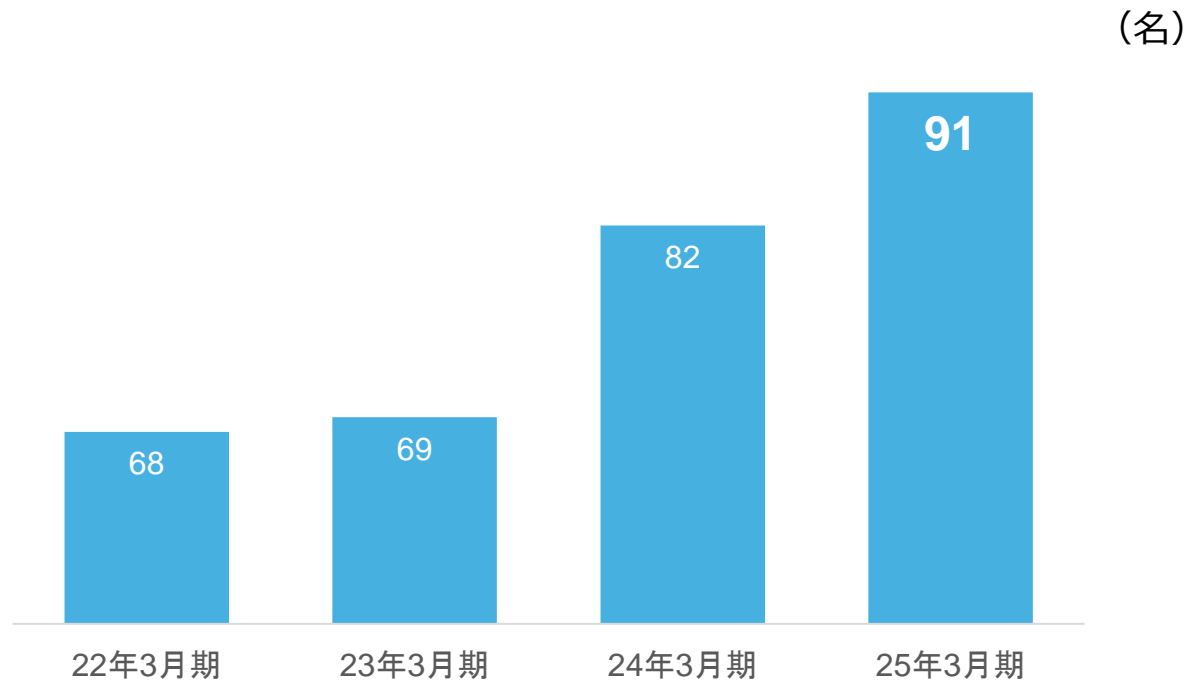
(施設)



*連携病院比率は農林水産省（令和6年12月末時点の小動物診療施設の件数）の開設届出数をもとに算出

事業KPI：獣医師数の推移

獣医師数



2. 成長戦略



中期成長目標の進捗

- ほぼすべての項目で達成
- 獣医師数も、好調な新卒採用を背景に、4月1日には目標をクリア

中期成長目標の進捗

	2024年度目標 (2025年3月期)	実績 (2025年3月期)	備考
獣医師数	96名	91名	• 未達だが、好調な新卒採用により、 4月1日現在では達成
初診数	9,651件	10,031件	• 二次診療ニーズの拡大、当社の診療品質への評価、連携病院の拡大により、計画を上回る
診療売上高	4病院合計 3,457百万円	4病院合計 3,786百万円	• 4つの病院すべてで計画を達成
連結営業利益	625百万円	720百万円	• Q4に投資を拡大したが計画は大幅にクリア • 26年3月期は、成長戦略のスピードアップに向けた投資を行うため、25年度の利益は微増を予想

- 既存戦略（地理的拡大、診療体制強化）を着実に進めるとともに
- 新たな成長の柱として、**AI活用も含めたDX・データ活用戦略**を推進
- 二次診療に特化し、一次診療施設様との連携・支援の実施、動物医療の進歩に貢献する

1

地理的拡大

名古屋病院 リニューアル（診療能力2.5倍へ拡大、2027年春を予定）
九州・福岡 への展開（2027年末以降を予定）

2

診療体制強化

人的資本への投資拡大、計画的な専門人材確保と育成策
診療フロー最適化、**AIを実装した新電子カルテシステム**

3

グループ能力の 結集

画像診断（キャミック）、**二次診療**（当社）、**在宅ケア**（テルコム）の
専門能力を結集し、**一次診療施設様への支援と関係強化**を図る

4

DX・データ活用

AI実装・次世代型電子カルテシステム

動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想の実現へ

- 豊富な画像診断・診療データの活用、匿名データ提供・解析が可能なデータ基盤を構築、当社電子カルテシステムと結合
- AI画像診断、AI診療支援、電子カルテのAI自動入力など、AIを活用したサービス展開の検討
- 全国の連携病院様約4650施設、大学、製薬会社様等への提供と協業を目指す

- 建設業界の状況にもよるが、早期開業を目指し、計画的に準備
- 開設資金の調達は、自己資金および銀行借入れで行う方針

名古屋病院リニューアル

- ・現病院の隣接地に設置予定。土地確保にめど。
- ・**診療能力は2.5倍に拡大、最新の放射線治療施設**も併設予定
- ・2027年春の開業を目指す

九州・福岡への展開

- ・候補地について交渉中
- ・2027年末以降の開業を目指す
- ・他エリアと同様に、**地域の一次診療施設様との連携を深め、協力体制の構築**を目指す

- 拡大する二次診療ニーズに対応するため、
- 高度人材の確保と育成、診療品質と生産性の向上策を総合的に実施

人的資本

- ・ **トップランナーとしての処遇の確立**へ、人事諸制度を全面的に刷新予定（2025年下期から運用）
- ・ 知名度上昇に伴い**採用が好調に推移している新卒獣医師**の育成強化、早期戦力化
- ・ 成長戦略を踏まえた、計画的な専門人材確保、チーム診療のさらなる高度化

診療品質のさらなる向上

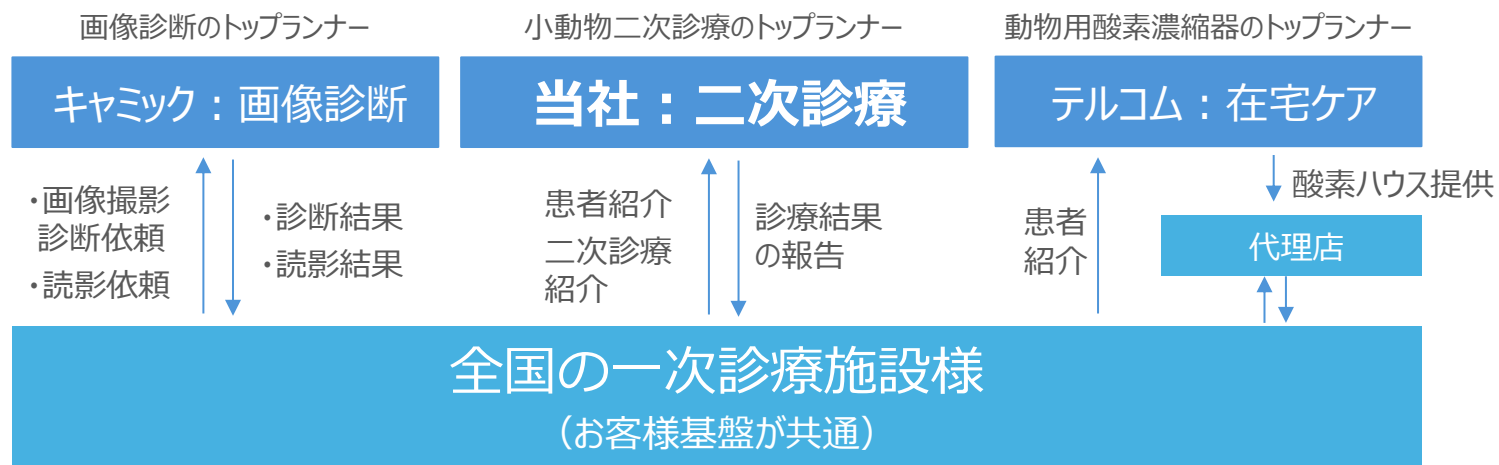
- ・ 診療プロセスの全面的な見直しと再構築（推進中）
- ・ **次世代型電子カルテシステム**（により、獣医師が診療と飼い主様コミュニケーションに集中できる体制へ）
- ・ 電子カルテ自動入力やAI画像診断支援など、**AIも活用した支援システム**の検討

医療機器への投資拡大

- ・ 川崎本院のMRIを最新型へリプレイス、CTも追加し2台体制へ移行（2025年末予定）
- ・ その他、各病院の医療機器・設備の刷新、ITインフラの整備を実施

成長戦略 ③ グループ能力の結集

- 当社グループの特徴、共通点
 - ・ 各社とも、**独自の専門性**を有する
 - ・ 各社とも、その分野での**トップランナー**
 - ・ 各社とも、一次診療施設様から紹介された飼い主様へサービスを提供 (**お客様基盤が共通**)
- 戦略的連携により、紹介元である一次診療施設様との関係強化、サービス提供機会の拡大を目指していく



- 動物二次診療のトップランナーとして、最も多くの画像データ・診療データを保有し、毎日、豊富な最新データを蓄積
- この優位性を生かし、AIも含めたDX・データ活用戦略を推進し、
- 新サービスの創出、一次診療施設様への支援、動物医療の進歩への貢献を図る

次世代型・新電子カルテシステム

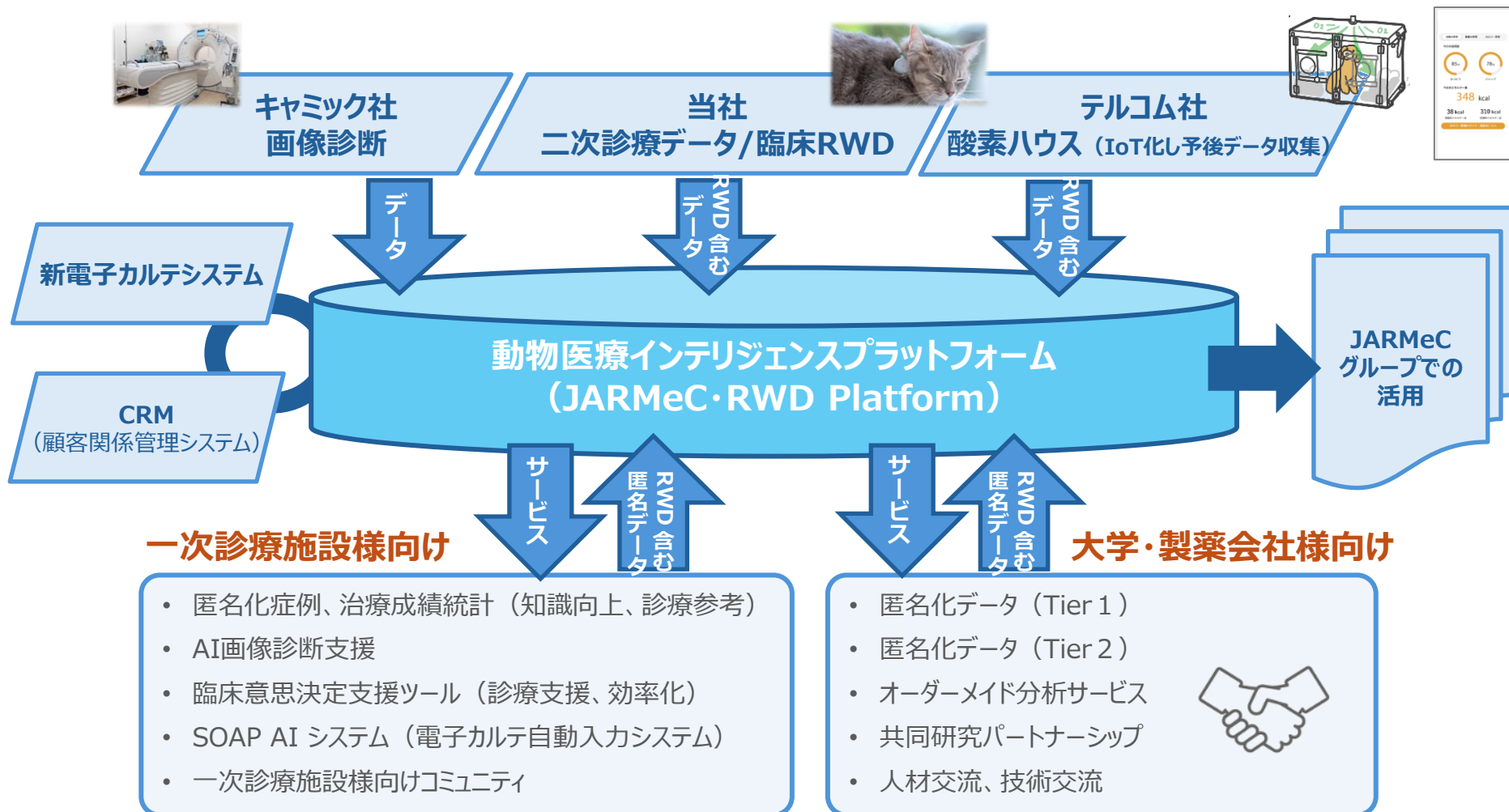
- ・AIも活用した、徹底的なデジタル化で、診療業務の負荷を軽減（2026年夏に稼働予定）
- ・獣医師が診療と飼い主様コミュニケーションに集中できる体制を早期に構築
- ・症例情報・診断支援システム等の提供で、一次診療施設様への支援と関係強化を図る

動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想

- ・日々蓄積される膨大な画像診断・診療・予後データを活用
- ・当社は二次診療に特化し、一次診療施設様向けに以下の支援を実施予定
 - ・AI画像診断、匿名化症例、治療成績統計等
 - ・AI電子カルテ自動入力システム、AI診断支援等

動物医療インテリジェンスプラットフォーム構想（イメージ）

RWD（リアルワールドデータ）：医療現場で得られる各種医療データの総称。ヒトの医療では官民挙げて、活用が進められている。



持続的成長へ向けた取り組み

※リアルワールドデータ（RWD）
医療現場で得られる各種医療データの総称。
ヒトの医療では官民挙げて、活用が進められている。

3 動物医療インテリジェンスプラットフォーム

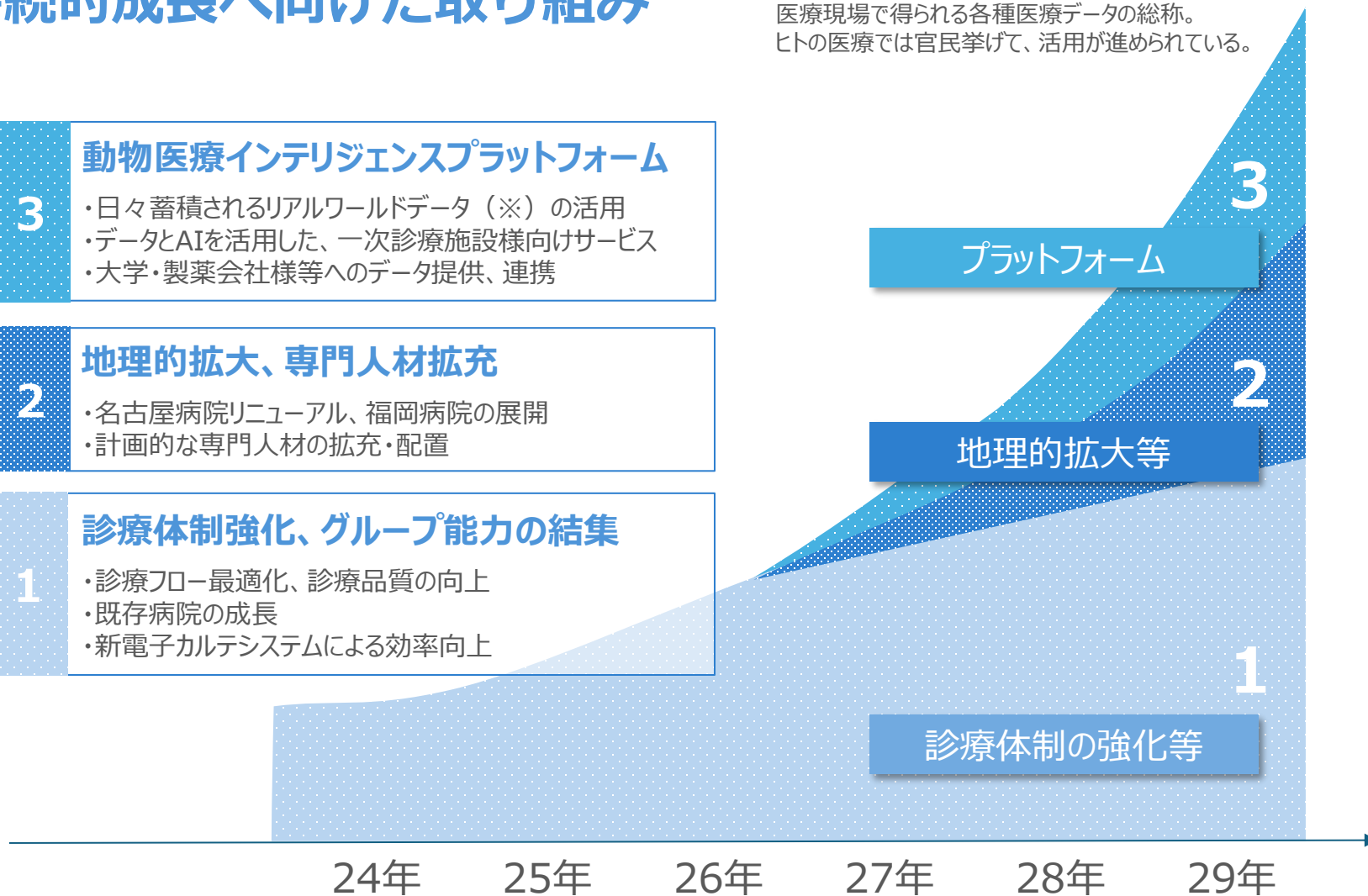
- ・日々蓄積されるリアルワールドデータ（※）の活用
- ・データとAIを活用した、一次診療施設様向けサービス
- ・大学・製薬会社様等へのデータ提供、連携

2 地理的拡大、専門人材拡充

- ・名古屋病院リニューアル、福岡病院の展開
- ・計画的な専門人材の拡充・配置

1 診療体制強化、グループ能力の結集

- ・診療フロー最適化、診療品質の向上
- ・既存病院の成長
- ・新電子カルテシステムによる効率向上



3. 2026年3月期業績予想



2026年3月期 業績予想

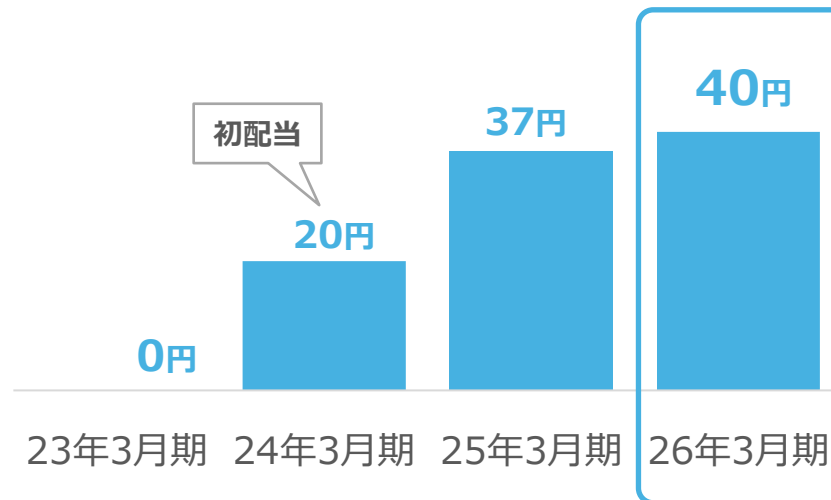
- 二次診療ニーズ拡大、一部診療費の価格改定、診療体制強化等により、売上高は10%増収を見込む
- **成長戦略の実現とスピードアップに向けて、戦略投資を拡大**するため、各利益は微増を予想

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	
	実績	通期予想	前年比増減
売上高	5,277	5,810	10.1%
営業利益	720	725	0.6%
経常利益	720	725	0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	520	525	0.8%

【配当予想（3期連続増配）】

2026年3月期の配当予想は
前期より**3円増配して40円**の予想



【配当方針】

株主の皆様への利益還元の充実を目的として、下記の配当方針とする

配当方針	<p>連結配当性向20%以上かつ株主様への利益還元の安定拡大を目標とする</p> <p>当社の経営方針は、持続的な事業成長と着実な企業価値の向上であり、配当については、成長投資とのバランスをとりつつ株主様への利益還元の安定的な拡大を基本方針とする</p>
------	--

4. Appendix



当社医療技術への高い評価（受賞歴）

関東・東京合同地区獣医師大会にて 学会長賞・奨励賞を9年受賞

日本獣医師会会員の約半数が所属している地区となる関東・東京合同地区獣医師大会において、コロナ禍の時期を除き、毎年当社の学術研究発表が表彰を受けています。



2013年	胸腺腫の猫に見られた剥脱性皮膚炎の1例	
2014年	肺吸虫感染の犬の1例	
2015年	腎瘻チューブ設置後に腎切開による結石摘出を行った犬の1例	
2016年	プレドニゾロンが奏効した猫消化管好酸球性硬化性線維増殖症の3例	
2017年	ガイドワイヤーの使用により尿路確保が可能となった尿道異常(尿道腫瘍,尿道損傷,尿道炎)の4例	
2018年	外科的治療により長期生存している肝外胆管癌の猫の2例	
	硬化性胆管炎が疑われた犬の1例	2題受賞
2019年	前腕の広範囲皮膚欠損創に遊離全層植皮術による皮膚再建を実施した犬の2例	
	肝管空腸吻合を行った肝外胆管閉塞の猫の2例	2題受賞
	巨大な犬の原発性肺腫瘍に対する外側肋間開胸術と胸壁横切開回旋開胸術の比較検討	中部地区も受賞
2020年～	コロナ禍による行動制限の影響あり	
2023年	稀少な発作徴候を示し脳波検査によりてんかんと診断した犬の2例	
2024年	卵巣遺残を疑診したラグドール種の猫で留意する点	

動物臨床医学会にてAwardを受賞



大阪で毎年開催される国内最大級の獣医系学会である動物臨床医学会年次大会において、前年に発表した演題が表彰を受けました。

「腫瘍分科会Award」
長期経過後に肺転移した肝細胞癌の犬の2例

「消化器分科会Award」
幽門狭窄に対してY-U幽門形成術を実施した猫の2例

株式会社キャミック

- ・日本初のMRI、CTによる動物検診センターとして2005年開業
- ・一次診療施設様からの完全紹介制
- ・首都圏3ヶ所（東京都世田谷区、東京都江戸川区、埼玉県さいたま市）で画像診断サービスを提供
- ・年間6,500件以上の画像診断の実績

テルコム株式会社

- ・酸素ハウス（酸素濃縮器と専用ケージ）のレンタル及び販売
- ・主に飼主様向けにレンタル、一次診療施設様向けに販売を行う
- ・全国に3営業所（神奈川県横浜市港北区、大阪府大阪市福島区、福岡県福岡市博多区）、5か所の特約店及び24か所の代理店
- ・全国約5,500以上の病院で利用の実績

最新のニュース



動物検診センター
キャミック

📍 キャミック城南

AI搭載 新型MRI導入

AI(ディープラーニング技術)を用いた
ノイズ除去再構成技術を搭載した
超伝導 1.5 テスラ DLR-MRI「Canon Vantage Fortian
〜ヴァンテージ フォルティアン〜」を導入
高精細化による診断能向上と
撮像時間の短縮が可能となりました。



画像見本 (T2WI) ※AI補正あり



グレープフルーツでの比較画像

（左）キャノン超伝導 1.5T Fortian
（右）当社導入超伝導 3.0T
※いずれも撮像時間2分程度の同等条件

新しい機器の特徴

- 獣医学界初のキャノン新開発 AI 技術「PIQE」搭載
- AI 技術による短時間撮像を実現 (3.0T MRI 以上の撮像 / スピードを実現 ※当社比)
- ゴア径 大型 71cm 超大型犬も対応可能
- マイクロチップアーティファクトを大幅に軽減 (他機種以上の軽減 ※当社比)

最新のニュース



ペットの在宅ケアに

ペット用酸素ハウス®



お部屋の空気から、高濃度の酸素をつくり出す酸素濃縮器と酸素をためるケージを組み合わせてペットの酸素吸入を助けます。

IoT
モニタリング
機能

軽量

静音

低消費
電力

テルコム社製「ペット用酸素ハウス®」3つの特徴

- 酸素濃縮器** 空気から酸素以外の成分を取り除くことで、高濃度酸素を生成しています。ポンベと違い、酸素がなくなることはありません。
- 専用ケージ** 流量が多いので、ケージの中に酸素を供給しながらペットが吐き出した二酸化炭素をケージの中から押し出し、換気できるように作られています。
- 操作方法** テルコムの酸素ハウスは、器機とケージをホースでつないでスイッチを入れるだけで簡単に利用開始できます。

NEW

軽量化 約16kgまで軽量化(従来品は23kg)

静音性 45dB以下まで下がりました。

消費電力 従来品より31%削減

Pick up!
新型器には「IoTモニタリング機能」を搭載。遠隔操作により弊社側で酸素濃度をモニタリングし、器械の状態を把握できます。器械の性能低下を把握できるので、適切なタイミングで器械交換が可能となります。



動物検診センターキャミック

営業時間 9:00～18:00 (3施設共通)

キャミック城北

埼玉県川口市有馬町西平塚2-1-5
TEL 048-606-3732

キャミックひがし東京

東京都江川区経堂東町1-10-6
TEL 03-6808-2139

キャミック城南

東京都世田谷区西原4-19-12
TEL 03-5752-5033



camie.jp

公式 SNS はじめました!

最新情報・検査の様子・各センターでの取り組みなどを発信します。ぜひフォローをお願いします!



テルコム株式会社

TEL 9:00～18:00 (3営業所共通)
TEL 0120-326-002

テルコム横浜

TEL 045-947-2903
神奈川県横浜市北區新吉田東 8-27-20

テルコム大阪

TEL 06-6460-7007
大阪府大阪市福島区白野 4-15-2

テルコム福岡

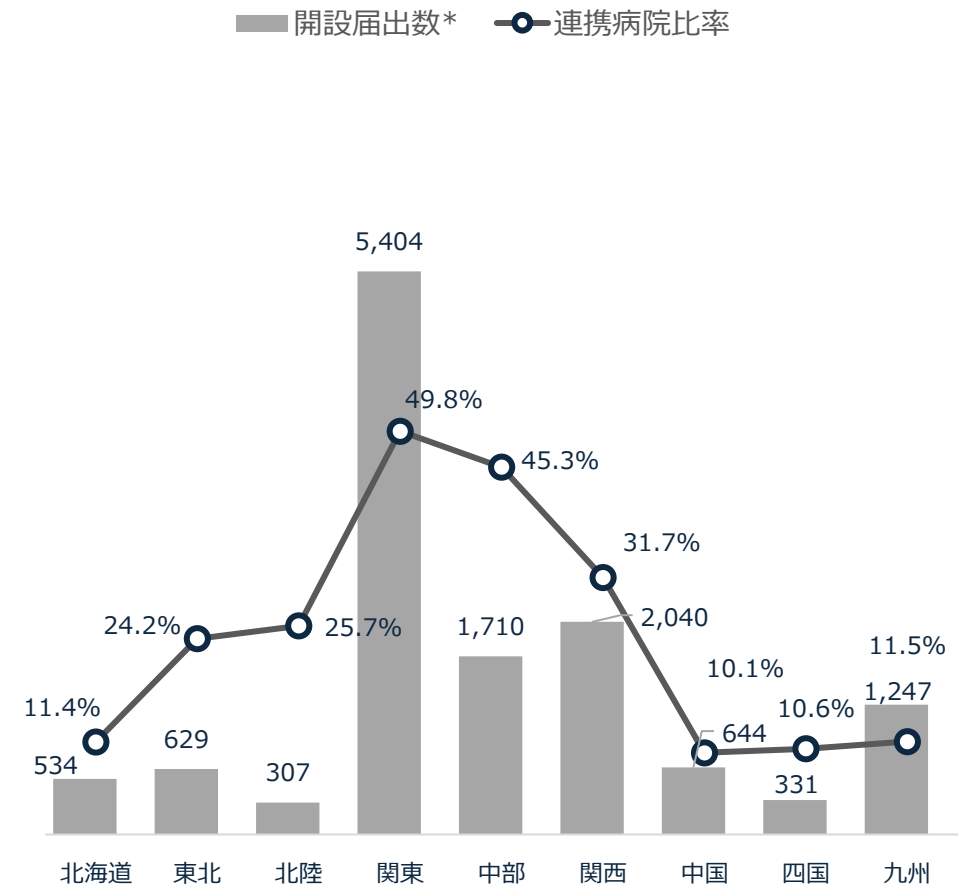
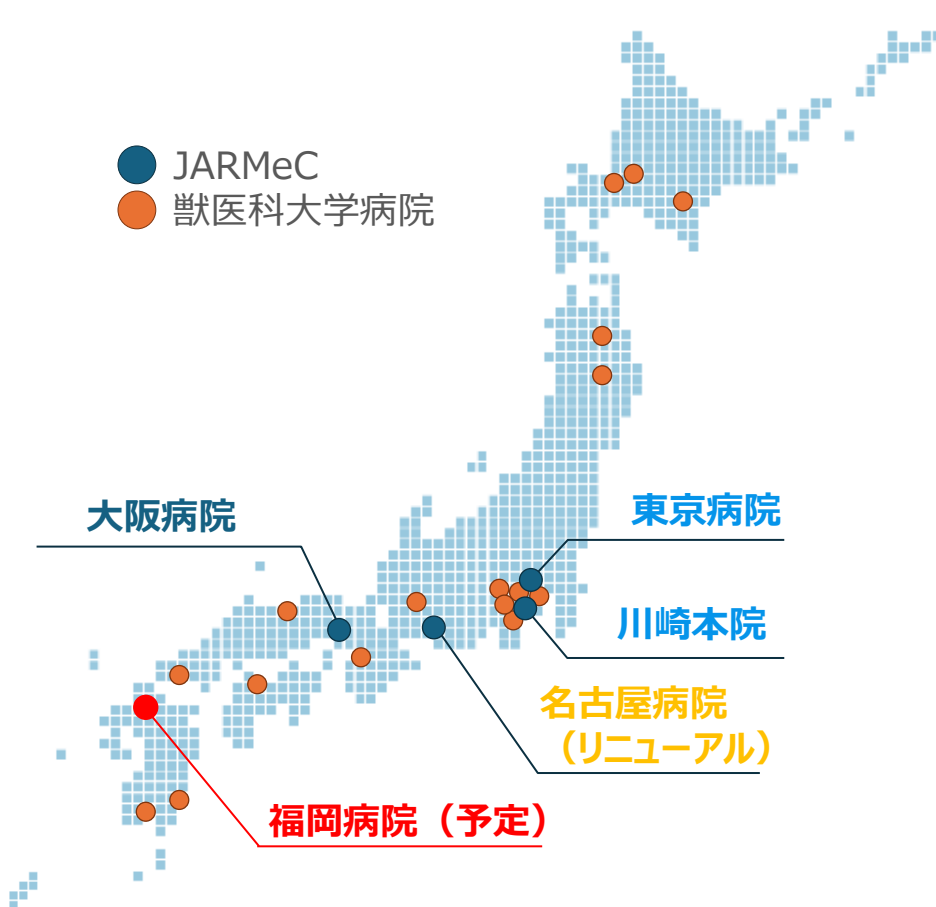
TEL 092-408-8021
福岡県福岡市博多区新洲 1-7-22
アルファージュ1階



terucom.co.jp

現在の拠点とエリア別状況展開

- 現在は関東に川崎本院・東京病院、中部に名古屋病院、関西に大阪病院の4拠点を展開
- 名古屋病院のリニューアルを予定すると共に、福岡病院の開設に向けた準備を進めていく

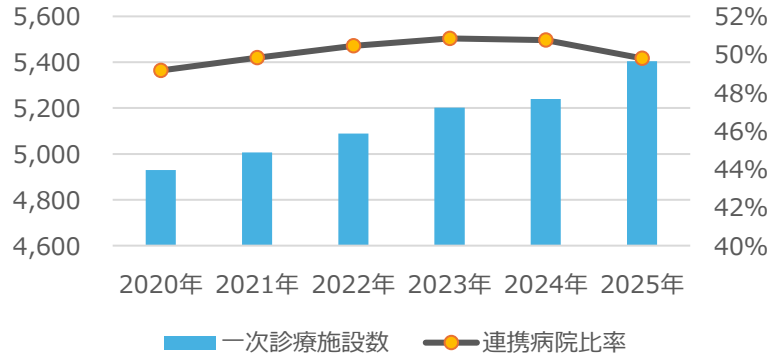


*開設届出数は農林水産省（令和6年12月末時点の小動物診療施設の件数）

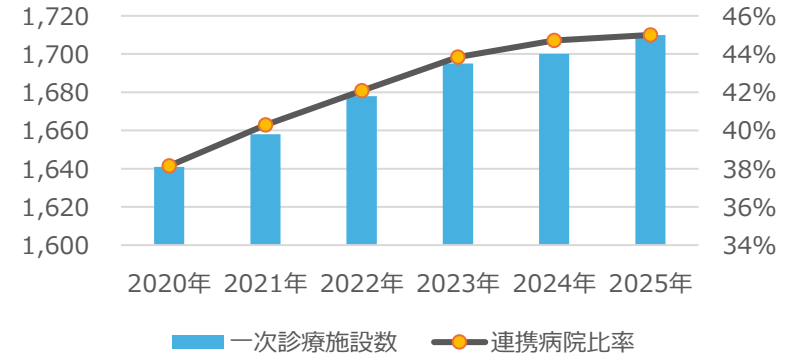
エリア別でみた連携病院比率

- 川崎・東京病院エリアでは連携病院比率は約50%→2つの病院で連携先を安定的に拡大
- 名古屋病院エリアの連携病院比率は継続的に伸びる→さらなる成長を目指す
- 大阪病院エリアでは拠点開設の直前から急激に連携病院比率をアップ→連携先の拡大を継続

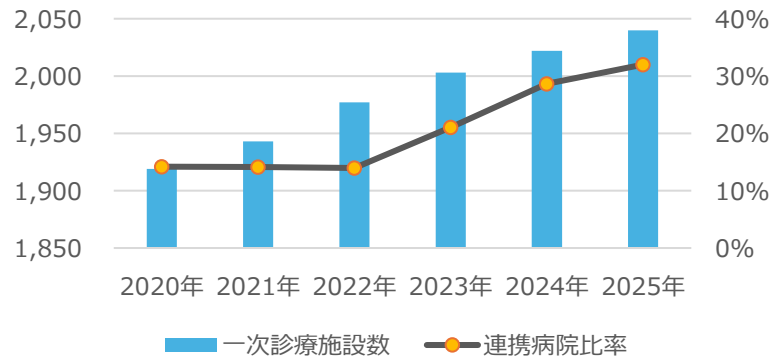
川崎・東京病院エリア



名古屋病院エリア



大阪病院エリア



*一次診療施設数は農林水産省（小動物診療施設の件数）の開設届出数をもとに算出

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 経営企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp